



電子図書館サービス開始までの経緯について

三池慎三郎

本学附属図書館は、開学当初から電子化を基本方針とし、昭和62年度大型計算機ネットワークにより全学にオンライン蔵書検索サービスを開始した（蔵書約120万冊中、図書約30万冊）。平成3年度に評議会の下に図書館電子化専門委員会及び電子図書館システム研究班を設置し、第Ⅰ期電子図書館システム整備計画（平成3～5年度）を策定した。図書館内にLANを敷設し、ADONIS（医学生物学分野の雑誌約430誌の全文）をスタンドアロンで、BIOSIS（生物学文献情報）及びMEDLINE（医学文献情報）を図書館内ネットワーク上で提供した。平成4年度には図書館専用計算機システムを導入し、翌年度には、インターネット上で蔵書検索サービスを開始した（蔵書180万冊中、図書約90万冊、雑誌約1万6千種）。平成6年度には、それまで評議会の下にあった委員会を電子化推進特別委員会として附属図書館長の下に移行し、第Ⅱ期電子図書館システム整備計画（平成6～8年度）を策定した。BIOSIS、MEDLINE以外にCurrent Contents（外国雑誌目次速報）、New

York Times（新聞の全文）等のデータベースを学内ネットワークにより提供を開始した。また、新館完成を記念して電子展示「天正少年使節と原マルチノの演説」をインターネット上で公開した。この年にはオンライン蔵書目録データが100万件を超えた。平成8年度には、図書館専用計算機システムを更新し、UNIXのシステム（LIMEDIO）を導入した。また、科学研究費により旧東京教育大学蔵書の目録データ入力を開始（平成8～10年度の3年計画、約20万冊）するとともに、貴重書約400冊全文データベース（画像）を作成した。平成10年1月から本学の研究成果を全世界に向けて発信する電子図書館の稼動にあたり、電子図書館のサービス、データベースの登録及び運用に関する問題を対処するために、附属図書館運営委員会の下に電子図書館専門委員会を設置した。この電子図書館サービスにより筑波大学の教育・研究活動と図書館活動が一層活性化されることを期待している。

（みいけ・しんざぶろう 情報システム課長）